

世界に飛躍するグローバル人材の育成

③大学の世界展開力強化事業

重点要求額： 21億円

背景・課題

- 社会・経済のグローバル化や産業構造の変化が加速する中、グローバルに活躍する人材の確保が急務。「新たな時代の開拓者たらん」という若者の大きな志を引き出し、自ら学び考える力を育む教育などを通じて叡智にあふれる人材を育成していくことが必要。
- 一方で、海外に留学する日本人の数は、2004年以降急激に減少しており、さらに留学のための前提となる外国語能力についても、日本は世界中でも低水準。また、海外留学の主な阻害要因として、経済的な理由、単位互換制度の不備、これに伴う「留年への懸念(就職に不利)」など教育体制の不十分さや就職への懸念といったことも指摘。
- 日本再生戦略(重点施策): 国際的に誇れる大学教育システムを構築するとともに、民間での取組を含め様々な形での日本人学生等の海外交流を促進し、質の高い外国人学生の戦略的獲得、国際化対応ビジネス人材の育成を図る。

目的・概要

これらの課題を解決し、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う海外の大学等との国際教育連携の取組を支援。

1. 海外との戦略的高等教育連携支援

(新規)20件×63百万円【重点要求】

- 欧州連合、東南アジア教育大臣機構等との共同による国際的な高等教育連携枠組みのもとで、戦略的な教育連携プログラムを開発・実施

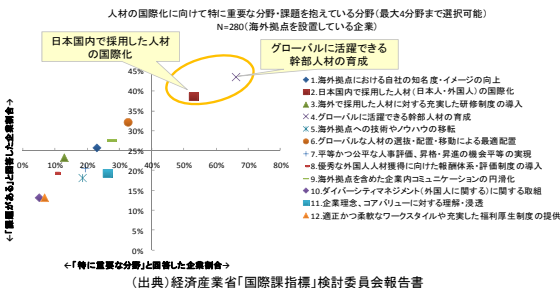
2. 高等専門学校のグローバル展開

(新規) 745百万円【重点要求】

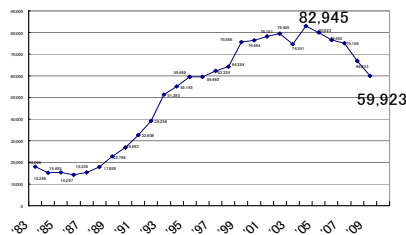
- 国際的に活躍できる優秀な実践的技術者を育成するため、高専生の海外派遣や、留学生の受入れ等、国際交流の取組を総合的に実施すると共に、アジア地域の国際技術者教育ネットワークを構築し、高等専門学校教育のグローバル化を推進

※)上記のほか、国際教育連携プログラムの質保証や国際連携の推進に係る支援経費として「高等教育国際連携・質保証推進経費」(新規50,000千円)を重点要求

海外拠点を持つ企業では、「グローバルに活躍できる幹部人材の育成」と「日本国内で採用した人材の国際化」が重要又は課題と認識している割合が高い。



海外留学する日本人の数は、2004年の8.3万人をピークに2009年は6.0万人(▲28%)に減少。



TOEFLスコア(iBT)の国別ランキングでは、日本は163カ国中137位と低位置。

順位	国名	TOEFLスコア
1位	オランダ	100
2位	シンガポール	99
3位	オーストリア ベルギー デンマーク	98
...
70位	韓国	82
...
102位	中国	77
...
137位	カザフスタン グアテマラ 日本	69
...
163位	ガンビア	68

ETS-Test and Score Data Summary for TOEFL Internet-based and Paper-based Tests
JANUARY 2011-DECEMBER 2011 TEST DATA

国立大学への調査では「経済的な理由で断念」「単位互換が困難」及び「帰国後、留年する可能性が大きい」等の割合が高い。

	件数	比率 (87大学中)
帰国後、留年する可能性が大きい	69	67.8%
経済的問題で断念する機会が多い	42	48.3%
帰国後の単位認定が困難	32	36.8%
助言教員不足	23	26.4%
大学全体としてのバックアップ体制が不備	21	24.1%
先方の受け入れ大学の情報が少ない	9	10.3%
両親、家族の理解が得られない	7	8.0%
指導教員の理解が得られない	3	3.4%
その他	27	31.0%

(出展)国立大学協会「留学制度の改善に関するアンケート調査」